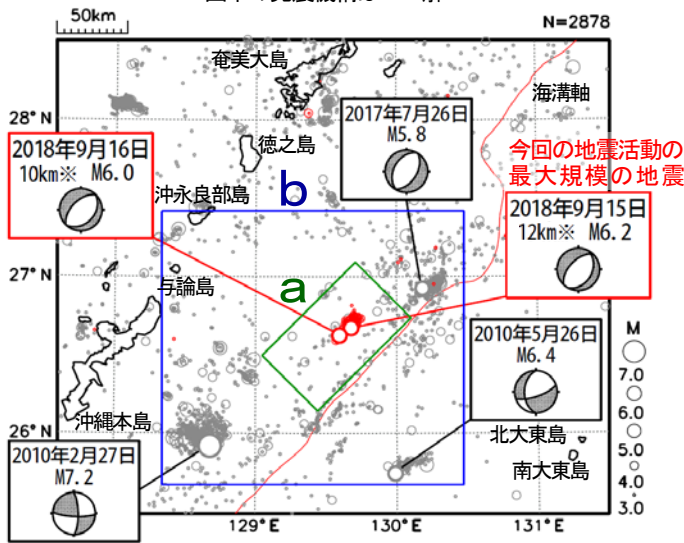


9月15日からの沖縄本島近海の地震活動

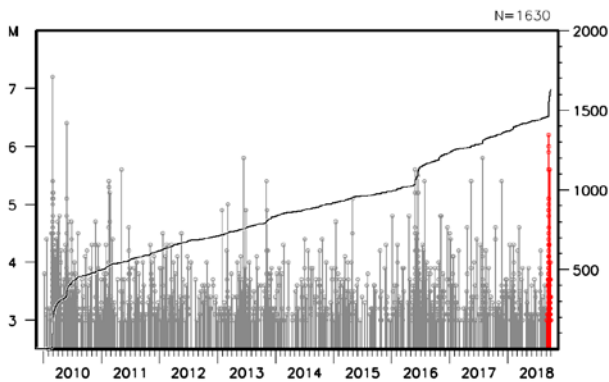
震央分布図

(2010年1月1日～2018年9月30日、
深さ0km～100km、 $M \geq 3.0$)
2018年9月1日以降の地震を赤で表示
図中の発震機構はCMT解



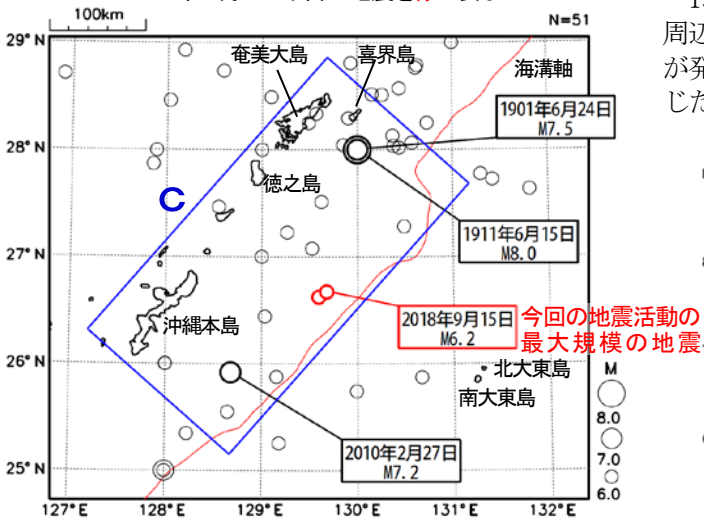
※2018年9月15日、16日の地震の深さはCMT解による

領域b内のM-T図及び回数積算図



震央分布図

(1900年1月1日～2018年9月30日、
深さ0km～100km、 $M \geq 6.0$)
2018年9月1日以降の地震を赤で表示

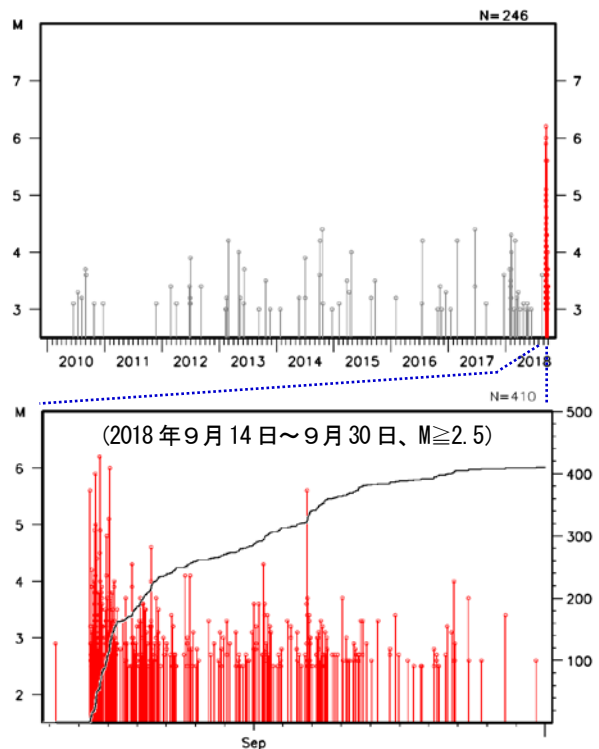


※震源要素は、1900年～1922年は茅野・宇津(2001)、宇津(1982、1985)による

2018年9月15日から沖縄本島近海で地震活動が活発になり、15日17時05分に深さ12km(CMT解による)で最大規模のM6.2の地震(最大震度1)、16日01時24分に深さ10km(CMT解による)でM6.0の地震(最大震度2)が発生するなど、震度1以上を観測する地震が6回発生した。発震機構(CMT解)は、ともに北西-南東方向に張力軸を持つ正断層型であった。地震活動は次第に低下している。

2010年1月以降の活動をみると、今回の地震活動付近(領域a)では、M4程度の地震が時々発生していたが、M5.0以上の地震は今まで発生していなかった。今回の地震活動の周辺(領域b)では、2010年2月27日にM7.2の地震(最大震度5弱)が発生するなど、M5.0以上の地震が時々発生している。

領域a内のM-T図及び回数積算図



1900年1月以降の活動をみると、今回の地震活動の周辺(領域c)では、1911年6月15日にM8.0の地震が発生し、死者7人、住家全潰418棟などの被害が生じた(被害は「日本被害地震総覧」による)。

領域c内のM-T図

